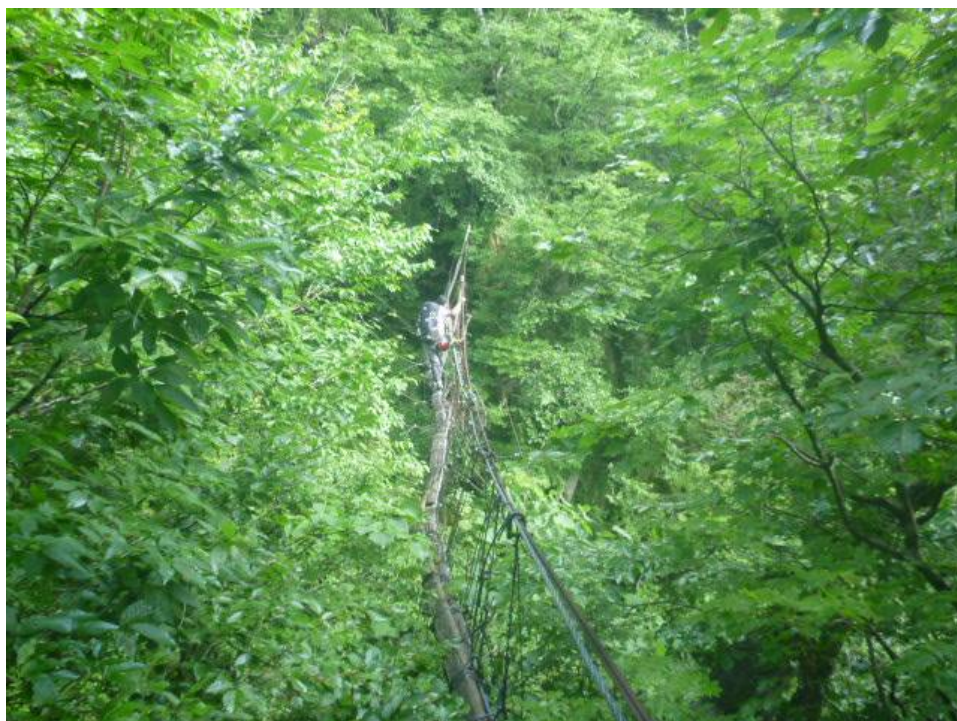


稜友

September 2014, No.237



一本吊り橋/三面川竹の沢アプローチ道

新潟稜友会

Home page http://homepage3.nifty.com/niigata_ryoyu/

巻頭言

近頃よく寺に誘われる。もちろん怪しい宗教や観光などではない。親戚の寺を継がないか・・・？って話。まあ考えようによっては一部非課税の自営業と見ればおいしいかな？とか、寺である以上、山号があるわけだから、それって一生かけても登りきれない山登りだよなあとか、バックカントリーに行ったらスノ坊？(笑)とか考えたりはするが、場所が関東平野の端の田舎とはいえ、これからの世代が金出すのか？自分の次は？とか考えると魅力的ではあるけどリスクもそれなりにあるよねえ・・・。ある意味年中無休24時間営業だが、今よりは時間の余裕はありそうだけど妻子持ちの40歳には結構厳しそうなので、しばらくはサラリーマン生活になりそうだ・・・。

(まる)

2014年 例会年間予定

例会日	担当	例会内容	備考
1月15日(水)		公募登山の準備	
2月19日(水)		公募登山の準備	
3月19日(水)		事故発生時の対応	
4月16日(水)			
5月21日(水)			
6月18日(水)			
7月16日(水)			
8月20日(水)			
9月17日(水)			
10月15日(水)			
11月19日(水)		総会の議題協議	
12月6、7日(土・日)		6日-忘年会、7日-総会	
12月17日(水)			

2014年 今月のコラム・巻頭言・編集担当者・原稿締切日一覧

月	今月のコラム(*)	巻頭言	編集担当者	原稿締切日
1月	大島	海老名	大島	1/04(土)
2月	海老名	大島	大島	2/08(土)
3月	金子	小川	大島	3/08(土)
4月	佐藤(孝)	小杉	大島	4/05(土)
5月	設楽	鈴木	関川	5/10(土)
6月	杉田	関川	三木	6/07(土)
7月	須藤	橋本(寅)	関川	7/05(土)
8月	中村	肥后(明)	関川	8/09(土)
9月	橋本(聡)	丸山(和)	三木	9/06(土)
10月	橋本(寅)	三木	小川	10/04(土)
11月	丸山(和)	大西	肥后(明)	11/08(土)
12月	大西	金子	大島	12/06(土)

(*) 秘湯、レシピ、こだわりの道具、子育てなどなど、各自自由なテーマで執筆。

2014年公募体験登山が以下のように決まりました。

お申し込みは20日前までをお願いします。

時期	山行内容	担当	予定候補
3月9日	雪山体験、スノーハイク	金子	川内山塊宝蔵山
4月13日	早春トレッキング	関川	八石山
6月1日	クライミング体験	海老名	杉滝岩
7月13日	沢登り体験	海老名	三国川十字峡
10月26日	紅葉トレッキング	海老名	信越トレイル
11月30日	初冠雪トレッキング	海老名	谷川岳天神尾根

稜友会ホームページにも掲載されていますので、内容を確認して下さい。

担当は変更される場合もあります。

山行報告

日程	山域(形態)	メンバー
7月26日~28日	金木戸川・小倉谷	須藤正雄、三浦大介(ぶなの会)、松岡

		祥子 (RSSA)
8月3日	大沢川	L. 海老名、須藤、国井、関川、池上、羽田、荒井
8月9日～12日	石狩岳+大雪山縦走	L. 橋本 (寅)、佐藤 (孝)、鈴木、大島
8月13日～14日	三面竹の沢 源流釣行	L. 須藤、海老名
8月23日～25日	飯豊連峰・裏川・矢沢～持場沢	須藤正雄、三浦大介、服部知尋 (ぶなの会)

金木戸川・小倉谷



「二俣に掛る両門の滝」

2014年7月26日～28日

須藤正雄、三浦大介(ぶなの会)、松岡祥子(RSSA)

日本百名谷の1つ、北アルプス・笠ヶ岳に突き上げる小倉谷。2か所ほど下部ゴルジュ内にテクニカル

な登りはあるものの概ね快適に登れる滝が続く。3つある大滝は見応えがあり百名谷にふさわしい。詰めのガレには閉口するが上がったところは爽やかな北アルプスの稜線、5月に滑った滝谷が見渡せて気分は爽快。下りは笠ヶ岳頂上を踏んで笠新道を下ったが選択ミス、クリア谷を降りれば1時間は早かった。

(須藤)

大沢川

2014年8月3日

L.海老名、須藤、国井、関川、池上、羽田、荒井



荒川支流大沢川。沢登りの魅力がコンパクトに凝縮された溪である。80年代以降、廻行用具の発達、情報入手が容易になったことなどにより、名溪と言われるような溪にはどこも多くのトレースが残り、様々なガイドブックにも紹介されている。めんどろなアプローチも無く、溪は明るく開けおり、登れる美滝が連続し、詰めの藪漕ぎもなく稜線に出ることができる。そんないいとこ取りの無名の沢など日本には存在しないと思われるが、実はそんなとっておきの溪が羽越国境にある。

核心は入溪してすぐに現れるチェックストーン滝。5年ほど前に訪れた時には滝の落ち口に流木があり、非常に簡単に乗り越せたのだが今回は予想外に苦戦した。ワンエイドでの突破となった。その後も滝また滝の連続でどこもバンバン登れてしまう！中間部の3段の滝、1箇所は高巻きとなるが、他は中級程度の

レベルのパーティーであれば満足のゆく滝登りが楽しめると思う。私がリードした 20m 滝は上部抜け口が難しく、ランナーが取りにくい。自信を持って一気に抜けるべきだろう。

上流部は穏やかな流れが続く沢歩き。岩魚の駆ける姿も見られる。登山道へ抜ける為のルートファインディングがこのルートの最も難しい部分になるかと思うが、他のメンバーが抜け道を良く知っていたので、すんなりと登山道に出ることができた。

今回は沖庭神社への参拝はかなわなかったが、遡行を終えたらぜひ、沖庭神社を探して欲しい。大きな倉場(岩)の上にひっそりと、まるで意図的に隠されているかのように沖庭神社はあります。

(海老名 誠)



石狩岳+大雪山縦走(尾根歩き)

2014年8月9日～12日

L.橋本(寅)、佐藤(孝)、鈴木、大島

8/09 6:30 タクシー乗車 8:00 音更山登山口発 9:10 1本 10:20 1本 11:20 1本 12:00 十石峠着 12:20 十石峠発 13:00 ユニ石狩岳 13:30 十石峠着 14:00 十石峠発 14:50 ブヨ沢 16:00 テン場着

8/10 4:15 起床 6:40 テン場発 6:50 ブヨ沢着 7:15 ブヨ沢発 8:10 1本 9:10 音更山着 9:40 音更山発 10:40 シュナイダー分岐 11:30 石狩岳着 12:00 石狩岳発 13:00 1本(撤退) 14:30 石狩岳着 15:00 石狩岳発 15:30 テン場着(シュナイダー分岐)

8/11 6:00 起床 10:00 テン場発 11:00 1本 13:15 渡渉点 13:45 渡渉完了 14:40 シュナイダー登山口着 16:30 層雲峡駐車場着

8/12 10:40 林道終点登山口発 11:10 あと4km地点 11:35 あと3km地点 12:00 1本 12:35 あと1

km地点 13:00 山頂着 13:15 下山 15:30 登山口着

8/7午後11時30分新潟港発の船に乗り込むため、9時に橋本家に集合、ターミナルに向かう。昨年(8/9)よりだいぶ空いている、4人一緒の寝床を確保し消灯までの短い時間を酒でやり過ごす。明日午後5時20分苫小牧港に着くまでが長い。8/8予定より20分早く苫小牧港に接岸、一路層雲峡を目指す。札幌に近づくにつれ雲行きが怪しくなり、断続的に雨が降る。昨年同様、旭川鷹栖ICで高速を降りイオンで食料と飲み物を調達する。再度高速に乗り、上川層雲峡で降り、層雲峡に入る。電話でタクシー会社と明日の確認をし、無料駐車場に車を入れる。既に数人が車の内外で泊まる準備をしている。我々もおおっぴらにテントを張りくつろぐ。明日の天気はまあまあだが、台風11号が接近しているのでその後が心配だ。

翌朝(8/09)、タクシーが30分前に到着、すぐに乗り込み十勝三股を目指す。林道に入り、音更山登山口を過ぎて、終点のシュナイダー口まで行ったのでバックしてもらおう。シュナイダー口には車が数台停まっており、何人かが登山準備をしていたが、音更山登山口には駐車スペースが無く、当然誰もいなかった。登山口からは笹ヤブがきれいに刈られ歩きやすいと思いきや、1kmほど歩くと刈り払いが突然終わり、猛烈な笹ヤブとなる。カッパを着て歩き出すが、ヤブは十石峠に出るまで続いた。途中の水場は湧水で、煮沸の必要は無いように思われた。十石峠手前でようやく稜線に出、視界が開け鋭く上がったニペソツが現れる。十石峠でゆっくりしていると、音更山方面から男性2人がやってきた。1人は地下足袋姿で、シュナイダー口から1周するとのこと。ここに荷物を置き、空身でユニ石狩岳をピストンする。ブヨ沢の水場手前で、シュナイダー口で身支度をしていた男女のパーティーに遭う。ブヨ沢は名前通りブヨや蚊が沢山飛び交っており、テン場は天気荒れないため、さきほどのパーティーにならい稜線上のピークに決める。明日の天気は予報ではまずまずとのことで、明日どこまで行けるかがこの山行のカギで、期待と不安が交錯する。

翌日(8/10)ブヨ沢で各自2Lずつ水を補給し行動開始。音更山への登りがきつい。急登を終えようやく山頂かと思ったが、音更山の山頂は登り切ったなだらかな稜線の更に先にあった。ニペソツや大雪の山々がよく見える。その手前に沼の原の池があり、まだまだ遠い。一息付いた後、石狩岳を目指す。シュナイダーコース分岐手前あたりから、山頂に人がいるのが分かる。シュナイダーコース分岐で1本立て歩き始めるが、ここからは登り一辺倒で最後はかなり急だ。途中単独行の女性が下山してくる。急登を登りきると、ひょっこりと山頂が現れる。この山頂が1966m、このちょっと先に1967mのピークがあるが、低い方に石狩岳の表示がある。展望はすこぶる良好、しばし休憩する。ここからが問題で、沼の原までは無理と諦め、根曲り廊下付近で適当な幕営地を探し泊まることを想定し歩き出す。稜線沿いにアップダウンを繰り返すが、次第に雲が出てくる。途中、沢登りの3人組が稜線下の草原で休んでいたが、我々の後を追って登山道を歩いて来る。川上岳手前でテント2張りが登山道を塞いで張られており、話をするとガイドツアーの客で、自分たちは今夜はここで泊まる、ガイド2名は水汲みに行っているとのこと。先行パーティーが1組あり、彼らが根曲り廊下付近で幕営する可能性があることを知る。そうこうしていると、沢登りの3人グループが追いつき、“今夜、前線が北海道を通過すること、沼の原通過は長靴でも困難なこと”を知らせ

てくれた。今朝の沼の原を実際に見ている本人からの情報でもあり、水もあるのでシュナイダーコース分岐まで戻り、明朝下山することとする。石狩岳まで戻り、タクシー会社に明日の下山を連絡、あとは分岐まで一気の急降下ということで、先行してテントを張っている孝栄さんには悪いが寅さんと一服する。分岐に戻るとテントがきれいに張っており、時間も早いのでゆっくりくつろぐ。明日は下山だけということで、アルコール類は少ないがテントの中で大いに盛り上がる。夜半は風雨が強まり、とても外に出ることは出来なかった。

翌朝(8/11)ゆっくり6時に起きる。雨はまだ降っているが大分小降りになってきた。ゆっくり朝食を採っていると、次第に雨脚が弱くなる。9時ころには完全に止んでしまう。おかげで外でパッキングを済ませ、10時下山開始。稜線近くは急な下りが続く。昼過ぎから陽が射し始める。倒木の幹にシマリスが1匹日向ぼっこをしていた。次第に沢の水音が大きくなり渡渉点に近づくと、結構な水量で流れている。しばらく沢沿いに歩くが、渡渉出来そうな場所が見当たらない。渡渉点でザックを降ろし下流部を見るが、良さそうな点はない。渡渉点手前の倒木が何本か倒れ、自然の丸太橋状態になっている地点が一番良さそうと思っていると、既に寅さんがそれを利用して対岸に移っていた。我々3人も寅さんが渡った場所の上流の倒木を利用して対岸に渡る。倒木が無ければ腰まで水につかり、とても危険な状態で渡らざるを得ないところだ。ヤレヤレといったところで1本立てる。ここからはほぼ水平な笹ヤブの中の道で、1時間ほどでシュナイダーコースの登山口に着く。迎えのタクシーが初日と同じだと30分前には来る、ひょっとして1時間前かもと雑談しながらお湯やコーヒーを飲んでいると、予想通り初日のタクシーが予想通りの時間に来る。初日の往路を層雲峡に向かって走るが、途中の国道でヒグマのこどもが路肩で一心に地面に顔を付けて何かを食べている。一度も顔を上げず、全くの無警戒状態だ。対向車も2、3台停まって眺めている。親離れしたばかりのようだが、警戒心が無いのは問題だ。層雲峡の駐車場に戻り、黒岳の湯(600円)に入り、コンビニでビールを買い、まずは乾杯。8時半から5分か10分花火が打ち上がる。その後雨が降るが屋根付きなのでノープロブラム。明日はどうするかと話していると、田川さんから近くのニセイカウシュッペ山を紹介される。私は雨具も靴下も下着も濡れているのであまり乗り気ではなかったが、他の3人は行く気満々。明日の天気次第で決めることとする。

翌朝(8/12)はまあまあで、慌てて登山準備に取り掛かる。登山口から山頂まで3時間ほどの話なので、サブザックに水と雨具だけ入れる。上川営林署に鈴木さんが電話し、鍵の番号と林道を聞く。林道が結構奥まで入り、誰も居ないだろうと思っていたら、登山口の駐車場には既に5、6台が停まっており、我々の後にも1台やってくる。手頃で人気の山のような。登山道には山頂までの距離がkm単位で表示され、急なアップダウンは無く、ほぼ緩い登り一辺倒で歩きやすい。山頂まで3km地点で前方に岩峰が現れ、それを巻くように登山道が付いている。岩峰の先が頂上かと思っていると、あと2km地点で左手になだらかな山頂が現れ、登山道がそれに向かって大きく反時計周りに付いている。やっと山頂が理解出来た。沢の上部には雪渓が残っており、脇にチングルマがかたまっている。遠目ではハクサンコザクラもあるようだ。岩峰脇まで来たら、岩峰方面から男女のパーティーが現れた。聞くと沢から上がってきたということで、男性だけ駆け足で頂上を往復して下山していった。山頂は強風でとても寒く、寅さんと私より30分は早く着いていただろう孝栄さんや鈴木さんはさぞ寒かっただろう。写真1枚撮って直ぐ

下山する。登山口の駐車場に着くと我々の車と、我々の後に着た車の2台だけが残っていた。層雲峡の駐車場に帰り、前日同様の行動をとる。夜は昨日は観なかった花火を駐車場の屋上から眺める。

翌日(8/13)層雲峡観光に出掛け、双瀑台に登り銀河の滝、流星の滝を眺める。その後、小樽に向けて出発する。小樽には2時過ぎに着いたが、鯉御殿(旧青山家別館)を観たかったので、昼食も採らず鯉御殿に向かう。太宰治の生家斜陽館もりっぱだったが、この建物もすごい。見学後、幕営予定の公園に車を止め、食事を兼ねて小樽観光に繰り出す。ちょっと早いがビール館(?)で夕食とする。1品1品料理の量が結構多い。ビール2杯に生ハムとじゃがいもベーコン炒めを食べる。込みだす前だったのでゆっくり過ごすことが出来た。公園に戻りテントを張りゆっくり休む。

翌日(8/14)午前10時30分小樽発、予定通り8/15午前6時に新潟港着、帰りに退院直後の聡子さんから梅酢を戴き帰宅する。

上川営林署 050-3160-5745

フェリー料金 往復 20,360円(車を除く)

タクシー料金、高速料金、ガソリン代、食費 計 15,100円

(大島伸幸)

三面 源流釣行

2014年8月13日～14日

L.須藤、海老名

お盆休み、3泊4日の予定で朝日・竹の沢の遡行を計画した。アプローチ道の完全な廃道、増水、天候の悪化、スズメバチの襲撃、悪条件が重なり偵察行、源流釣行の旅となった。

とにかく悪かったのが、奥三面小屋からのアプローチ。以前はしっかりと踏み跡があったらしいのだが、踏み跡は皆無に近い状態・・・消えていることは予像していたが想像以上の悪さであった。藪漕ぎどころか、4時間、5時間もの大高巻きをやっているようなもの。また、あろうことか私はキイロスズメバチの襲撃を2回も受けてしまった!!!10箇所も刺されたのではないだろうか。きっと罰が当たったのだろう・・・思い当たる節は沢山ある。キスケ小沢から三面川本流に下降。竹の沢出合に到着したのは16時近くにもなってしまった。疲れた体に鞭打ち、ツェルトを設営。グローブの様に腫れた手で竿を振ると、さすがに三面源流、ポイントごとに良型の岩魚が上がる。幾らでも釣れるのであろうが、他に食べるものもあるので4匹だけ釣ってすぐに竿はしまった。

先の天候が悪化するのには確実。水量も多い。2日目、本流を水線通しで下降することにした。三面本流を下るのも、それは簡単ではない。のみ込まれたら助からないような激流をへつり、泳ぎ下る訳である。撤収とはいえ十分な緊張感であった。

今回、足を踏み入れることができなかった竹の沢は文句なしの朝日連峰を代表する渓であらうと想

像する。10 年以上前に隣の岩井俣沢を遡行した時は、その溪の大きさ、奥深さに私は心を奪われた。三面源流、「千年斧入らず」と称される原始の姿を残す山。三面マタギが熊撃ちに浪漫を駆けた山。ここは源流遡行の魅力が十分すぎるほどに詰まっている。三面川最初の一滴を求めて再びここを訪れてみたい。

(海老名 誠)



岩魚のスープパスタ

飯豊連峰・裏川・矢沢～持場沢

2014 年 8 月 23 日～25 日

須藤正雄、三浦大介、服部知尋(ぶなの会)

飯豊連峰の沢の中では訪れる人の少ない裏川、矢沢出合に掛る天然記念物の天狗橋、それに続くゴルジュ帯と盛夏では雪溪に覆われる上部V字ゴルジュを探る旅に出た。

下山口に車をデポするため実川林道に入ると半分ほどで路肩崩壊通行不能。昨年の水害で崩れたようだ。林道を半分稼げれば御の字、裏川林道終点まで車を入れる。

今日はブナ入り平までへつり道を行くだけ。背丈ほどある草藪をかき分け出発。ほどなくブナ林に入ると藪は気にならなくなるもののブナ林が切れるとまた草藪に覆われ道を見失う。あまりにひどいので要所口手前から沢に降り遡行。魚止め滝を秘める通行不能のゴルジュ帯、ブナ林に上がり立派な道に戻る。このままブナ入り平まで素直に行けるかと思いきやそうは甘くなかった。立派な道は長続きせず高巻き藪こぎ同然の道と化す。暑さで熱中症寸前。もう良かろうと本流に降りるとゴルジュが行く手を遮る。再び巻き道(らしき)へもどり半藪漕ぎでブナ入り平手前の沢で終わりと安堵していたら沢側壁が崩壊して降りられない。藪を伝って下り最後は 20m懸垂 2 回で水無し沢出合下の本流へ降りる。2 年前のある記録では 6

時間で水無し平に着いているが今回は 8 時間かかってしまった。ここ 2 年の間の水害で道はかなり荒れたようだ。本流から一段上がった平地にツェルトを張る。



「暑さに耐えきれず降りたらこの流れ」

2 日目は狭いゴルジュをヘツリを交えて 40 分でオコナイ沢に突き当たる。オコナイ沢は 2 段 40m を越える落差の滝で出合い、本流は左へ屈曲し 3 段 20m の滝となってゆく手を遮っている。本流の滝は登れる余地はない。過去の記録が無ければ戻って大巻きの所だが右岸側壁の凹角から登っている記録があるので迷わず取り付く。出だしはヌメって悪いが残地ハーケンあり、悪いのはその上のブッシュに入る手前。ザックの荷揚げも藪に引っかかり苦勞する。一旦ブナの段丘に上がりすぐに小沢をクライムダウン、本流の滝落口に降りると釜になっていた。下流に広がる空間が大きい。ここに降りたパーティーは過去いるだろうか。

ヘツリ、小さな高巻きを交えて進むと両岸はさらに高く狭まりいよいよ矢沢出合。曲がり角を曲がると目の前に天狗橋が！ どうして出来た天狗橋？ しばし感慨にふける。昨日から本流の水が濁り気味なナノを気にしていたがそれは矢沢からであった。上部雪溪が大規模に崩壊したのであろう、濁流のような色をしている。



「矢沢出合の天狗橋」

天狗橋を潜ってその先のゴルジュに入った記録は無い。さらに絞られたゴルジュを進むとすぐに直瀑で行き止まり。側壁に取り付く隙は無い、天狗橋まで戻り天狗橋と側壁の間のチムニーから巻き上がる。思ったよりわずかな巻きでゴルジュをいなすと谷は開け(側壁は高くなるばかりだが)解放感のある中に快適な滝が続く。地図上の滝(政一の滝)は登れそうだが時間がかかるので巻くと雨が当たり出す。一旦谷は開け土砂の堆積した広い河原となる。集中豪雨でもなければ大丈夫な小高い河原を泊り場とする。夕

方には雨は止み快適な一夜を過ごす。



「持ち場沢出合下流の連瀑帯」

3 日目は朝からナメ&トイ状の快適な連瀑帯、矢沢のハイライトと言えよう。持ち場沢が右岸垂壁の切れ込みとなって出合い矢沢上部のV字ゴルジュが見えてきた。雪渓の末端が真っ黒い塊となって埋め尽く

しているのが遠望される。あれが崩れれば濁るわけだ。予想外の雪渓の多さだ。今回の山行の目的の一つは雪渓の消えたゴルジュを探ることにある。この雪渓の量では泥だらけで雪渓処理に終始するのは目に見えている。明日の天気も怪しくなってきたので持場沢からエスケープすることにする。

鋭く切れ込んだ持場沢は見える範囲巨大なチョックストーン連続、あれを越えれば何とかなるだろう。持場沢の遡行記録は無い、不安と期待で登り出す。予想通り悪い所は1か所の巻きでチョックストーン帯を越える。その先は予想外の快適なナメ滝が続く。地図上の屈曲部も念のためロープを出すのが快適に越える。ナメとガレでどんどん高度を上げ少しの藪漕ぎで稜線へ抜け出る。核心部と恐れていた稜線の藪も1時間で楯ガ峰着。矢沢を覗き込むとガス湧く谷間の底はどす黒い雪渓で埋め尽くされている。寡雪の今年であったがゲリラ豪雨で雪渓上に土石流が流れ、土砂で雪渓が覆われ溶けが遅くなったと思われる。

来るたびに歩きにくくなるオンベ松尾根を下り林道歩き 1 時間半で車着。津川で食材を仕入れ今夜は打ち上げだ。夜から雨が降り出す。

(須藤)

今月のコラム

3月に4泊5日で南九州の韓国岳、開聞岳、宮之浦岳の百名山3山のツアー山行に行った。

計画は旅行会社、もちろん飛行機、車、宿、食事の手配も旅行会社がした。

参加者15人で登山ガイドさん2人が付いた登山である。

初めてのツアー山行で戸惑うところもあったが、並んで切符を買うことのわずらわしさや、宿に着いてのチェックイン等をしなくて良いので、快適で、いつもの山行とのあまりの違いに、これで良いのかなとも思ったりした。

いつもの山行は、テント泊で経費は、交通費とテント場代のみだが、ツアー登山はそれなりの経費が掛かる。でも、私も含め力のない人が、山へ行く手段の一つの方法かもしれないと割り切ると、たまにはこんなルンルン山行も良いものだと思った。

(橋本 聡子)

※次回のコラムは橋本(寅)さんです。お楽しみに。

● 会費について

☆会員	年会費 9,000円 (夫婦会員は2人で16,000)
	保険料 5,000円～ 月割可 (詳細は金子まで)

☆会報会員	年会費 1,000円 (月報の電子配信会員)
-------	------------------------

- ・ 1月末までに下記口座への振込をお願いいたします。
郵便局 記号：11220 番号：23683431 口座名：新潟稜友会
- ・ 不明な点は丸山亮子まで

●会員だけの掲示板が出来ました

山行計画、下山報告、住所変更、アドレス変更などに利用してください。
会のホームページの掲示板ページからもログインできるようになっています。
会員専用掲示板は一般公開されません。
公開してもかまわない記事は今まで同様掲示板に投稿してください。
アドレス：<http://8421.teacup.com/msudou/bbs>
携帯電話(iモードなど)からも閲覧、書込み可能です。
ID・パスワードは、知っている会員から聞いてください。

●万代市民会館集会室利用方法

最初に来館した人は、4階ロッカー室の稜友会の棚から、当日の日付が書いてある
利用許可書1枚を持って1階受付に提出し、必要事項に記入の上、部屋のカギを受け
取って会場に入ってください。

●必ず守ってください

山行計画書、下山報告共に
金子・海老名
まで、FAX・メール・携帯電話等で連絡の事

次回原稿締め切り 10月4日(土) 担当：小川まで

●原稿形式

形態を（ ）で

日付は全角、西暦で

地図・地区もなるべくつけてください

鳥海山湯ノ台口(山スキー)

2000年6月3日(土)～4日(日) 2万5千円「湯ノ台」「鳥海山」

メンバー L.

3日 7:00 湯ノ台口 10:00 滝ノ沢小屋 …横書きで

本文

★(橋本真信)…カッコでフルネーム

★表紙に写真を載せて欲しい人は月報担当者にネガ(または写真)を送るか、電子データとしてメールで送って下さい。表紙以外で写真を載せて欲しい人は担当者に渡して下さい。

テキスト形式が基本ですが、ワードで原稿を送ってもOKです。FDの場合は、プリントアウトしたものを同封して下さい。

新入会員募集中！

毎月第3水曜日 pm 7：30～万代市民会館4階の「青年の家」にて集会を開催しています。気楽に顔を出して下さい。詳しくは、TEL 025-223-0393 金子恒夫

